



九月(小) ながつき

斗宿

(九月八日白露の節より)
月命癸酉四緑木星の月
暗剣殺東南方

旧八月大
九月小

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出	入出	満潮	干潮
1日	日	かとうし	二黒		二百十日、防災の日、関東大震災記念日、富山八尾風の盆(3日迄) 旧八月大	三	佛滅	とる	房	●	5.12	18.10	6.55	19.37
2日	月	みづのえとら	一白			四	大安	やぶる	心		5.13	18.08	6.29	19.00
3日	火	みづのと	九紫			五	赤口	あやぶ	尾		5.14	18.07	6.29	19.00
4日	水	きのえたと	八白		敦賀気比神宮祭	六	先勝	なる	箕		5.15	18.05	7.16	19.26
5日	木	きのと	七赤			七	友引	おさん	斗		5.15	18.04	7.16	19.26
6日	金	ひのえうま	六白		●上弦一二時一〇分	八	先負	ひらく	牛		5.16	18.02	7.16	19.26
7日	土	ひのひつじ	五黄			九	佛滅	とづ	女		5.17	18.01	7.16	19.26
8日	日	つちのえさる	四緑		白露七時一七分、太田呑竜開山忌、天しや、一粒万倍日、不成就日	十	大安	とづ	虚	よろづよし	5.18	18.00	7.16	19.26
9日	月	つちのとり	三碧		重陽、多賀大社九月古例祭、救急の日	十一	赤口	たつ	危	大みぎ	5.18	17.58	7.16	19.26
10日	火	かえいぬ	二黒			十二	先勝	のぞく	室	百事吉	5.19	17.57	7.16	19.26
11日	水	かのと	一白		二百二十日、東京芝大神宮しょうが市(21日迄)	十三	友引	みつ	壁	大みぎ	5.20	17.55	7.16	19.26
12日	木	みづのえね	九紫		福岡管崎宮放生会(18日迄)、八せん始め	十四	先負	たいら	奎	天おん	5.21	17.54	7.16	19.26
13日	金	みづのと	八白		十五夜、世界の法の日	十五	佛滅	さだん	婁	天おん	5.21	17.52	7.16	19.26
14日	土	きのえとら	七赤		●望一三時三三分、三隣亡、岸和田だんじり祭	十六	大安	とる	胃	きこ	5.22	17.51	7.16	19.26

残暑はまだまだ厳しいが、それでも月半ばを過ぎると朝夕涼気を感じよう。この季節、夏場の疲れが表面化した。暑さのために消化器系統が弱っていたり、とかく健康を害しやすい。健康管理に十分に留意しないと、思わぬ重病になることがある。

また立春から数えた「二百十日」や「二百二十日」があるが、これは農作(稲の開花期)と台風の関係を表している。注意を喚起するようにしたわが国独特の呼称である。

【冠】九月九日は五節句の最後、重陽(九という数字を陽数とした陰陽術による)の節句という。またの名を「菊の節句」と呼ぶように、この日は酒に菊花をひたして飲み、健康長寿を祝う。また、健康長寿を祝う「一婚」この月から秋の結婚シーズンが始まる。挙式に続く新婚旅行にも快適な気候である。ただ、それでは

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出	入出	満潮	干潮
15日	日	きのと	六白		老人の日、老人週間(21日迄)、京都石清水八幡宮祭、一粒万倍日	十七	赤口	やぶる	昴	くま日	5.23	17.48	7.16	19.26
16日	月	ひのえたと	五黄		●敬老の日、鎌倉鶴岡八幡宮やぶさめ、不成就日	十八	先勝	あやぶ	畢	大みぎ	5.24	17.46	7.16	19.26
17日	火	ひのと	四緑			十九	友引	なる	觜	十し	5.24	17.46	7.16	19.26
18日	水	つちのえうま	三碧			廿	先負	おさん	参	めもん	5.25	17.45	7.16	19.26
19日	木	つちのひつじ	二黒		岩手水沢駒形祭、子規忌	廿一	佛滅	ひらく	井	●	5.26	17.44	7.16	19.26
20日	金	かえさる	一白		彼岸入り、空の日、動物愛護週間(26日迄)、神奈川寒川神社例祭、庚申、一粒万倍日	廿二	大安	とづ	鬼	大みぎ	5.27	17.42	7.16	19.26
21日	土	かのと	九紫		秋の全国交通安全運動(30日迄)	廿三	赤口	たつ	柳	大みぎ	5.27	17.41	7.16	19.26
22日	日	みづのえいぬ	八白		●下弦一四時一分	廿四	先勝	のぞく	星	母倉	5.28	17.39	7.16	19.26
23日	月	みづのと	七赤		●秋分の日、秋分一六時五〇分、彼岸中日、川柳忌、八せん終り	廿五	友引	みつ	張	ちう日	5.29	17.38	7.16	19.26
24日	火	きのえね	六白		結核予防週間、甲子、不成就日	廿六	先負	たいら	翼	天おん	5.30	17.36	7.16	19.26
25日	水	きのと	五黄			廿七	佛滅	さだん	軫	百事吉	5.31	17.35	7.16	19.26
26日	木	ひのえとら	四緑		彼岸明け、和歌山日前・国懸祭、三隣亡	廿八	大安	とる	角	天おん	5.31	17.33	7.16	19.26
27日	金	ひのと	三碧			廿九	赤口	やぶる	亢	天おん	5.32	17.32	7.16	19.26
28日	土	つちのえたと	二黒		小田原道丁尊大祭、一粒万倍日	卅	先勝	あやぶ	氏	天おん	5.33	17.30	7.16	19.26
29日	日	つちのと	一白		●朔三時二六分、曹洞宗兩祖忌、己巳、不成就日 旧九月小	朔	先負	なる	房	十し	5.34	17.29	7.16	19.26
30日	月	かえうま	九紫		大つち	二	佛滅	おさん	心	月とく	5.34	17.27	7.16	19.26

くても心労が重なった直後だけに、ハードなスケジュールは極力避け、一生の思い出にせひ心楽しい旅行を持ちたいものである。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「秋分の日」を中心とした七日間が秋のお彼岸である。先祖に感謝し精霊の供養や墓前の香華の手向け等を行う。暑さ寒さも越えたものといえよう。

【祭】九月一日は「防災の日」これは大正十二年のこの日関東一円を襲った大地震によって、未曾有(みぞう)の災害が出たために、災害の怖さを銘記するよう定められた日である。

この月の下旬、旧暦八月十五日は「十五夜の望月」である。これを仲秋の名月というのは、七月を初秋、八月を仲秋、九月を晩秋といひ、その八月の十五夜が満月だからである。

「敬老の日」九月第三月曜日(平成十五年施行)。社会に尽くしてきた老人を敬愛し「長寿を祝う日。また十五日から二十一日までは老人週間(平成十四年施行)である。

※昼夜の長さがほとんど等しくなるのは、日本では春分から三日後、秋分から三日後である。